

McAfee Policy Auditor

効率的なコンプライアンス対応を可能にする統合機能と革新性

高度なITセキュリティ監査ソフトウェアでコンプライアンス検証のコストを削減しましょう。McAfee® Policy Auditorが最適化されたアプローチを提供します。統合と革新性を備えたソリューションにより、監査の費用と労力を軽減しながら、ROIと生産性を向上させることができます。

主な法規制に対応したコンプライアンス対応

McAfee Policy Auditorは、事前定義のポリシー コンテンツとIT統制を関連付け、監査プロセスを自動化し、内部/外部ポリシーに対する正確で一貫性のあるレポートを作成します。McAfee Policy Auditorでは、PCI DSS、SOX、HIPAA、FISMAなど様々な法規制に対応したベンチマーク テンプレートを使用できます。また、McAfee Policy AuditorのPCIダッシュボードを使用すると、統合されたビューでPCI要件/統制の対応状況を確認できます。このソリューションは、ベストプラクティスのフレームワークであるISO 27001とCOBITにも対応しています。対応のプラットフォームは幅広く、Microsoft Windows、Oracle Solaris、Red Hat Linux、CentOS、HP/UX、IBM AIX、Apple Macintosh (Mac) OS-Xに対応しています。

McAfee ePolicy Orchestrator®との統合による管理コストの削減

McAfee ePolicy Orchestrator (McAfee ePO™) とのシームレスな統合により、配備や管理、レポートの作成を簡単に行うことができます。1つのMcAfee ePOコンソールでエンドポイントセキュリティとコンプライアンスの両方を管理できるので、所有コストを抑えることができます。ハードウェア、トレーニング、運用にかかる費用を削減しながら、各ホストのポリシーとセキュリティを一元管理できます。

主な特長

操作性の向上

ポリシー 監査とエンドポイント セキュリティを統合管理

コンプライアンス対応までの時間を短縮

管理対象システム(エージェント)と管理対象外システム(エージェントなし)に統合監査を実施

コンプライアンスの維持

主な業界基準と内部ポリシーに対する対応状況を報告

手動監査の自動化

最新のデータ、強力なダッシュボードとレポート、組み込みの適用除外管理機能で操作が簡単に

SCAP-FDCCによる検証

米国標準技術局 (NIST) がSCAP標準として認定

データシート

統合されたポリシー監査でコンプライアンス管理の時間を短縮

管理対象システム（エージェント）と管理対象外システム（エージェントなし）の監査を統合して実施できます。McAfee ePOコンソールで統合ポリシー ベンチマークを定義して、異なる資産タイプを評価できます。これにより、監査にかかる時間を短縮し、統合レポートですべての資産の評価を管理できます。

スクリプトによるMcAfee Policy Auditor検査機能の拡張

監査対象のシステムで使用可能なスクリプト言語でルールを作成し、ポリシー エージェントの検査機能を拡張できます。VBScript、Batch、Perl、Pythonなどの言語を使用できます。

コンプライアンス検証の新しい規格に対応: SCAP

McAfee Policy AuditorはSCAP (Secure Content Automation Protocol) ファミリを実装し、新しい規格に対応しています。このオープンな規格により製品とサービス間の相互運用が可能になり、監査にかかる時間、コスト、労力を削減できます。

次のプロトコルに対応しています。

- XCCDF (eXtensible Checklist Configuration Description Format)
- OVAL (Open Vulnerability and Assessment Language)
- CVE (Common Vulnerabilities and Exposures)
- CCE (Common Configuration Enumeration)
- CPE (Common Platform Enumeration)
- CVSS (Common Vulnerability Scoring System)

業界のベンチマークを数分で適用

SCAPの対応と弊社独自の革新的なエンジニアリングにより、ベンチマークやポリシーが変更されても、コンプライアンス検証を簡単に行うことができます。監督当局のサイトからベンチマークをダウンロードして、ベンチマークの詳細なセキュリティ ガイドを表示できます。たとえば、NISTのサイトからFDCC (Federal Desktop Core Configuration) ベンチマークをダウンロードします。統一されたベンチマークを利用することで、セキュリティ チームや外部監査者が正確な判断を行うことができます。

データシート

常に最新のデータを使用

革新的で連続した監査モデルにより、セキュリティチームと監査チームは最新で正確なデータを使用できます。これにより、内部監査と外部監査用に手動でデータを生成する必要がなくなります。ブラックアウト ウィンドウを使用すると、業務時間中に監査データを収集しないように設定できます。重要な業務アプリケーションの処理が邪魔されることはありません。

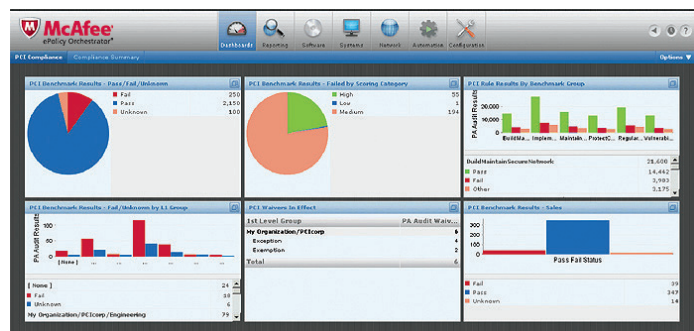


図1. 強力なビジュアルなダッシュボードにより、コンプライアンスの測定、監視、報告を簡単に行うことができます。

ビジネスと監査プロセスの調整

監査は簡単なものではありませんが、効率的に行うことは可能です。適用除外を文書化してポリシーからの逸脱を記述したり、有効期限を設定して露出を抑えることもできます。

- 免責 — システムをすべての監査の対象外にします。
- 抑制 — レポートに報告しない例外

問題報告のチケットを簡単に発行

監査で問題が検出された場合、McAfee ePOから簡単にチケットを作成し、管理できます。オプションの統合機能を使用すると、サードパーティの問題チケット管理システム (BMC Remedyなど) にチケットを送信できます。

McAfee Change Controlによるコンプライアンスの維持

未承認の変更を検出して修復するだけでなく、このような変更を未然に防ぎ、コンプライアンスを維持します。



〒 150-0043
東京都渋谷区道玄坂 1-12-1
渋谷マークシティ ウエスト 20F
Tel. 03-5428-1100 (代表)
www.mcafee.com/jp

McAfee、McAfeeのロゴ、ePolicy Orchestrator、McAfee ePOは、米国法人McAfee、LLCまたは米国またはその他の国の関係会社における登録商標または商標です。その他すべての登録商標および商標はそれぞれの所有者に帰属します。Copyright ©2017 McAfee, LLC. 12701_0910B 2010年9月